

令和7年度第1回浜松市美術館協議会会議録

- 1 開催日時 令和7年8月18日（月）
14時00分～16時30分
- 2 開催場所 浜松市美術館2階 講座室
- 3 出席状況

会長	今田徹
委員	荒川朋子
委員	伊内弘康
委員	伊藤典明
委員	笥有子
委員	佐藤聖徳
委員	鈴木矢々

（事務局職員）

市民部文化振興担当部長	嶋野聡
美術館長	飯室仁志
秋野不矩美術館長	鈴木英司
美術館長補佐	徳増宏之
美術館副主幹	増井敦子
美術館副主幹	市川智久
美術館副主幹	若澤久実
美術館	安岡真理
美術館	島口直弥
美術館	内山智恵
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容
 - （1）会長の選出について
 - （2）会長職務代理者の指名について
 - （3）令和6年度浜松市美術館事業報告及び
内部評価について
 - （4）令和6年度浜松市秋野不矩美術館事業報告及び
内部評価について
 - （5）その他

6 会議録作成者 市川 智久

7 記録の方法 審議事項について発言者の要点記録
録音有

8 会議の記録

(徳増館長補佐) 令和7年度第1回浜松市美術館協議会を開催する。

協議会開催にあたり、石上委員が所用により欠席となるが、浜松市美術館協議会要綱第5条に基づく委員過半数以上の出席となったため、本会議開催要件を満たしたことを報告する。傍聴の申し込みは0人である。

それでは、次第の2、浜松市美術館協議会委員の委嘱書・任命書を嶋野担当部長より交付する。

(徳増館長補佐) 続いて次第の3、嶋野担当部長からあいさつする。

(嶋野担当部長) 建築してから54年が経過し新美術館基本構想を考えていかなければならない。今後は各委員の皆様からご意見をいただく機会があると思われるのでご協力をいただきたい。本日は、令和6年度の取組についてご報告させていただく。委員の皆様から忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい。

(徳増館長補佐) 続いて次第の4、飯室館長からあいさつする。

(飯室館長) 本日は令和6年度の取組について内部での反省を含めた評価内容を報告させていただき、委員の皆様から忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい。昨年度は館蔵品を活用した展覧会を2回開催し、今後もしできる限り館蔵品を市民の皆様にお見せできるよう検討していきたい。

(徳増館長補佐) 続いて次第の5、美術館協議会委員の自己紹介をお願いします。

(徳増館長補佐) 続いて次第の6、美術館職員の自己紹介をお願いします。

(徳増館長補佐) それでは、議題に入る。会長の選出について飯室館長へ進行をお願いします。

(飯室館長) それでは次第の7(1)の会長の選出になりますが、浜松市美術館条例第20条第1項より会長は委員の互選により定めるとしている。委員の中から推薦する委員をお願いします。

(荒川委員) 今田委員が適任であると考え推薦する。

(各委員) 異議なし

(飯室館長) それでは荒川委員より推薦がありました今田委員を会長とする。

(飯室館長) それでは次第の7(2)職務代理者の指名になりますが、浜松市美術館条例第20条第3項よりあらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理するとしている。

今田会長より職務代理者の指名をお願いする。

(今田会長) 職務代理者として寛委員を指名する。

(飯室館長) 職務代理者を会長から指名がありました寛委員をお願いする。ここからは今田会長に進行をお願いする。

(今田会長) 次第の7(3)令和6年度浜松市美術館事業報告及び内部評価について、次第の7(4)令和6年度浜松市秋野不矩美術館事業報告及び内部評価について事務局から説明をお願いする。

(事務局) 令和6年度浜松市美術館事業報告及び令和6年度浜松市秋野不矩美術館事業報告内部評価について説明する。

※資料に沿って説明

(今田会長) ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

(荒川委員) 来館者数の設定について考え方をお示しいただきたい。

(事務局) 過去に実施しました同規模の展覧会を鑑みて、収支等も考慮し設定をしている。

(伊内委員) 市展の開催についてですが、令和7年度はクリエート浜松にて期間を短くしての開催と聞いているが、応募者への周知等はどのように考えているか。

(事務局) 令和7年度の市展につきましては、浜松市美術館の外壁改修工事によりクリエート浜松にて開催予定である。クリエート浜松の使用団体との調整も必要であったため通常の間催期間より短くなっている。会場変更周知について昨年度市展参加者においては作品返却時にクリエート浜松での開催を紙面にて周知した。HPやSNS、募集要項、ポスター等であらためて周知徹底をしていく。

（伊内委員）市展審査員の選出方法について。

（事務局）市展のコンセプトをご理解の上、前委員の推薦により選出している。絵画などの複数の審査員を選出する場合は専門分野の異なる審査員を選出している。

（寛委員）市展の展示数について。

（事務局）応募数が316点。そのうち260点の入選作品を展示した。

（佐藤委員）誰もが気軽に立ち寄れる美術館になるような展示構成になる運営側の目線が大事になる。見る側の目線に立って遠方から来てもらえるような、集客力であれば写真や動物、仏像の展覧会、子ども向けであれば絵本の展覧会などがよい。駐車場から美術館までの道のりの雰囲気が大変よいので、展覧会にうまく活かせるようお願いします。

ひっぱりだこ展の言葉は結果であり、その前にどういう魅力がありその魅力を言葉で表現できればよかった。

展覧会の担当学芸員を、キャラクターとして前面に出して集客に繋げてみてはと考える。

（鈴木委員）展覧会の魅力をSNSやポスターなどを活用し、美術館では何かが待っている「わくわく感」を来館した方から周囲の方へ効果的に伝達させることが大事。

（伊藤委員）秋野不矩美術館の団体鑑賞は建築系の方が多いのか。

（事務局）大学で建築を学んでいる学生が多い。

（伊藤委員）秋野不矩美術館は建築業界の中では大変興味深い建築物であり、浜松市周辺地域における建築系の学生や研究者に、民間の建物や庭園などとあわせて観光資源として情報を届けていきたいと考える。

学芸員のキャラクター化も集客要因として価値がある。

浜松に強い関心を持った方から伝達された情報は強い共感を得られ、それは究極のロコミに繋がると考える。

（佐藤委員）美術館の見せ方としてSNSの活用が重要であり、今の若年層の方は私たちが思っている以上にSNS分析に長けていて、それを踏まえ美術館として何をどのように発信しなければならないかを考えていく必要がある。

（今田委員）秋野不矩美術館の収蔵品についての修復業務はどうしているか。

（事務局）計画的に優先順位をつけて実施している。

（事務局）各委員から学芸員が表に立って発信とのご意見について回答する。今活動しているのは学芸員がではなく先人たちがコレクションした収蔵品を令和6年度では紹介した。浜松市美術館の成り立ちを紐解いていくと全て市民の方々のご尽力により収蔵品は成り立っている。価値の高いコレクションだから展示するのではなく、収集した先人たちを紹介することに重きを置き美術館展覧会運営を行っている。

（筧委員）美術品を収集し浜松の文化度を上げようとした先人たちをキャラクターとして情報発信してみてもどうか。

（事務局）昔は企業と連携しておりまして、文化と経済が密着して地域が発展していたので、今後についても連携ができれば文化・経済・観光を含め浜松全体を盛り上げていけるのではと考える。

（筧委員）出張講座の時にレプリカを作成し使用するのはいかがでしょうか。平面では作品の可愛らしさとかが伝わりにくいため、できれば立体的なレプリカを作成し触って見て感じられるような工夫ができればいいが。

（事務局）博物館は社会教育の一環として、浜松市内の全ての小学校が必ず博物館に行くことで繋がりがあがる。美術館は博物館と同じように、小学校や中学校も含めて全て来ることができない。学習指導要領に入っていないこともあるが、美術の時間が少ない、遠方の学校が美術館まで来る負担というのがあるので、全部の小学校が美術館へ来ることができないのであれば、私達が学校へ足を運びたいところであるが、美術品を持って学校まで行くのは非常にハードルが高いため困難である。レプリカには予算等の問題もある。

（佐藤委員）人とのつながりを感じるのは重要だと考えていて、例えば道の駅で見かける野菜の販売ですが、生産者の名前が書いてあると書いていない野菜と比べて書いてある野菜をついつい買ってしまふ。
美術品もそうだが無意識の中でつながりを求めているのかもしれない。

（筧委員）ほとんどが満足度アンケート90%台だが、これは満足した人がアンケートに答えているようにも捉えられ、70%台でも十分高い数値と考えるが、満足された方と不満足な方の両極のアンケートかもしれない。全体像が分かるアンケートに

なるとよい。

（荒川委員）来館者達成目標に対して示す数字もどう理解したらいいのかもあるが、来館者がどれくらい来てその中から何%が答えたのか。展覧会が浜松の文化と経済の繋がりとか、年齢層にターゲット絞るわけにもいかないし、でもそこは重要でワークショップや講演会でバランスを取っていると思うが、アンケートに答えたり展覧会に好意を寄せてくれる人たちの年齢層が分からないと、この資料だけでは読み取れなくて、年齢層が分かると何かもっと活かせる情報として委員からお伝えできるものがあると感じた。

（事務局）実際のアンケートでは年齢層を集計しているので、今後の内部評価に表記していく。

（今田会長）（４）その他について事務局から説明をお願いしたい。

（事務局）「浜松市美術館運営についての考え方ー改訂版ー（案）」を配付させていただいた。令和２年度に策定した「浜松市美術館運営についての考え方」を社会状況の変化や博物館法の改正等を踏まえて取組内容を改訂したものである。改訂にあたり、これまでの取組に対する総評や、今後の取組内容等を見直しているため、ご一読いただき、ご意見いただければと思う。公表に向けてのスケジュールとしては、８月中に委員からご意見をいただき修正確認後、９月中旬頃を目安として公表していきたい。説明は以上である。

（今田会長）ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

（各委員）質疑応答なし

（事務局）本日の事務局の内部評価報告をもとに、委員の皆様には外部評価をいただきたい。９月末を目途にご提出をお願いしたい。

（事務局）令和５年度末より新美術館の庁内検討会議を進めている。各委員におかれましては、今後ご意見をいただく機会があると思いますのでご協力をお願いします。

（今田会長）令和７年度第１回浜松市美術館協議会を閉会する。

